

岡崎市議会議長 様

支出番号

9

会派名

自民清風会

代表者名

加藤 義幸



下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

## 政務活動旅行報告書

平成 29年 11月 2日提出

活動年月日	平成 29年 8月 7日 (月) ~平成 29年 8月 8日 (火)	
氏名	野本 篤	
用務先 及び 内 容	1 8月7日	用務先 石川県 小松市
		内 容 社会福祉施設西園寺の運営について
	2 8月7日	用務先 石川県 白山市
		内 容 社会福祉施設「B'sプロジェクト」について
	3 8月8日	用務先 石川県 金沢市
		内 容 Share金沢について
	4 月 日	用務先
		内 容
備 考		



# 政務活動旅行報告書

報告者：野本 篤

## ◆視察行程

8月7日（月） 11:30 - 13:30

石川県小松市：西圓寺の運営について

8月7日（月） 14:40 - 16:40

石川県白山市：B'sプロジェクトについて

8月8日（火） 10:00 - 14:10

石川県金沢市：Share 金沢について

## ◆社会福祉法人 佛子園

西圓寺、B'sプロジェクト、Share 金沢の3つの事業の母体となっているのが「社会福祉法人 佛子園」である。もともとは、宗教法人「行善寺」の住職が行き場のなくなった子ども達を住職が庫裏で引き取ったことがきっかけであった。

昭和35年宗教法人「行善寺」より土地・建物の寄付を受け「仏子園」を開設した。さまざまな沿革を経て、平成17年4月、西圓寺の住職が逝去されたのを機に、一人ひとりが活躍できる、役に立てる「ごちゃまぜ」の福祉サービス事業所の展開を開始し、その理念を基本に、まちの交流拠点となるような施設づくり、だれもが活躍できるまちづくりを進めていった。

名 称：西圓寺（さいえんじ）

所在地：石川県小松市野田町丁68番地

平成17年4月、住職の逝去に伴い、後継者が決まらずに廃寺となる予定であった西圓寺。門徒・町内会役員の残していきたいという要望を受けて、「障がい者の参画」と「地域の協力」を条件に地域のコミュニティー施設として再興することになった。

平成18年9月、土地と建物寄贈。平成19年3月、内装などの工事着手。平成20年1月、「三草二木 西圓寺」オープン。また、自費で温泉を掘り入浴施設となった。

「ごちゃまぜ」の福祉サービス事業所としての仕組みを知るには施設内にて身を置き過ごすことが重要と考えた。





外観はもともとの寺院そのものであったが、施設内は寺院の設備を残しながら、非常に明るい雰囲気であった。

基本的には温泉施設と言っても過言ではない。所在地である町民の入泉料は無料とのことであった。地域との共生が重要との考え方であった。

施設内の設備も素晴らしいのだが、そこで働く人や利用する人を注目した。温泉施設の消耗品を手になじく歩く男性。施設内を少々荒くも雑巾を持って掃除する男の子。駄菓子の販売や飲食スペースで注文を取る女の子。食後の食器が下がるのをふきんを持って待ち、机を拭く男性。いずれも障がいのある人達であった。

もともと本堂であったと思われる場所には高齢者が笑顔で会話をしながら食事をしていた。なかには介助が必要な方もみえ、介助スタッフも数名在籍している。

昼食を施設内のカウンターで摂ることにした。おすすめのメニューをダウン症の女の子が教えてくれ、注文を受けてくれた。料理を作るのは地元の女性たちであった。

カウンターで食事していると、となりに重度の麻痺がある女性と介助する男性スタッフが座った。注文した料理は特別なものでなく、同じ料理に同じ食器であり、全く分け隔ては無いのであった。慣れた手つきで食材をハサミでカットし、食べやすい大きさにして食事の補助をはじめた。男性スタッフにこうした状況で一緒に食事をするのは初めての経験であると伝えると「そうですね」と笑顔で答えてくれた。

食事をしている近くでは地元町民が温泉に入るために声をかけた。「いらっしゃいませ！」と介助していた男性スタッフが受付へ走り対応した。「やることが多いね」と話しかけると、介助ばかりしているとストレスが溜まっていく、でも、色々な役をやることでストレスが溜まりにくいとのことであった。



約2時間余りを西園寺で過ごした。障がい者福祉や高齢者福祉などといった垣根は全くない。できることはできる人で行う。働ける者は働く。過剰な介助は必要ない。みんな何かの役に立っている。地域も巻き込み、まさに「ごちゃまぜ」である。しかし、全く違和感もない不思議を体感することができた。



しかし、肝心の収支のことが気になった。どんなに理想を掲げても収支を避けて通れない。施設長に聞いてみた。

就労事業収入は平成 20 年で約 1800 万円から平成 28 年は 2800 万円へ。福祉事業収入は平成 20 年で約 2000 万円から平成 28 年は 6900 万円と右肩上がりであった。収入源のひとつに地域との深い関わり合いの中から、地元のお酒などの名産品の生産販売にも携わっている。オープンから 6 年くらいでようやく収益がでてきたとのことである。

名 称：B's プロジェクト

所在地：石川県白山市北安田町 548 番地 2

「ごちゃまぜの福祉サービス」を基本原理にして、まちの交流拠点として様々な企画を集約した施設といえる。

施設内に母体である佛子園の事務所があり、西圓寺と同様に行善寺があり温泉施設となっており、飲食や物販エリアも充実させていた。

また、地域の診療所、0 歳から 2 歳の子どもを対象にした保育施設、児童発達支援センター、カフェ、キッチンスタジオ、フラワーショップなどが併設されている。

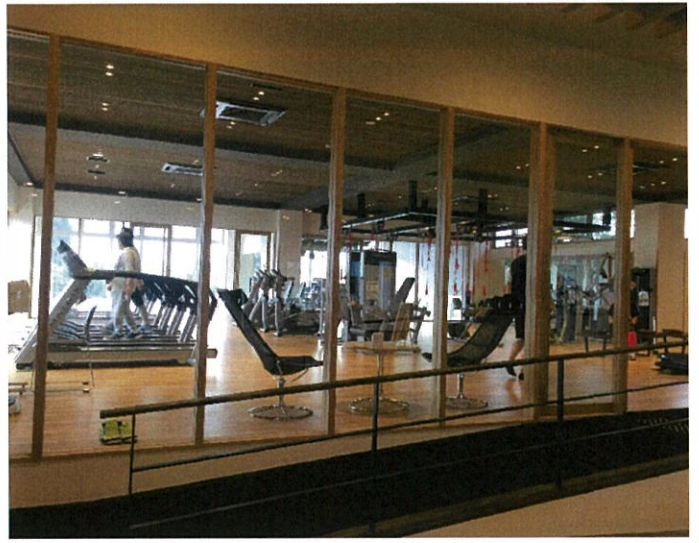
特筆すべきは、住民や大学生たちが自由に活用できる「住民自治室」、室内プールを備え、スポーツ機器も充実したフィットネスジムがある。

いずれの施設においても障がいのある人たちの雇用があり、どのエリアも出入り自由となっている。

障がいのある人にも、地域住民にも有意義な交流拠点となっている。









名称：Share 金沢

所在地：石川県金沢市若松町セ 104 番地



B's プロジェクトは交流拠点として成立していたのを拠点ではなく、まち（集落）として高齢者、大学生、病気の人、障害のある人、分け隔てなく誰もが役割をもてる、かつての良き地域コミュニティを復活させたような場所と言える。

約 11,000 坪の敷地の中に、サービス付き高齢者向けの住宅や訪問介護施設。配食サービスもある。

知的障がい児童の入所施設や児童発達支援センター。

これまで同様に天然温泉にレストランと販売エリアも充実している。

しかし、これまでとは違う点もある。それは「まち」ならではの施設といえる全天候型グラウンドやクリーニングとコインランドリー。敷地内にはアルパカ牧場やマッサージ店、ブーツのセレクトショップ、アトリ工付き学生向け住宅、ウクレレの教室などがあつた。

まさしく「ごちゃまぜ」の集大成ともいえる施設であつた。温泉施設やクリーニング店では障がいのある方たちが働き、高齢者とのコミュニケーションや介助の一役を担っている。高齢者もただサービスを受けるだけでなく、自分たちがやれることをやろうというコンセプトに従い、アルパカの散歩やエサやりを早朝からしているとのことである。訪問した当日は雨天のため、その姿を見ることは叶わなかつた。

さまざまな施設がある中で、ウクレレ教室の先生にお話を伺うことができた。ちょうど地元地域の生徒さんが集まって練習をされていた。





敷地内にあるウッドハウスを賃貸しているとのこと。賃料が低額に設定されているので運営がしやすいとのこと。その代わりに施設内で行われたりするイベントや行事にはすすんで参加協力をするのが条件のようである。



#### ◆ 考察

事前の調査において「ごちゃまぜ」という考え方が想像できなかった。また、可能なものなのかと疑念があった。

しかしながら、現地施設を訪問し、そこで時間を過ごすことによって口頭での説明よりも確かな理解につながった。

今回、同系の三つの施設を訪問した。西圓寺から始まり、その後の進化形を見せていただき学ぶことができた。

あらゆる状況の人が等しくあらゆる場面にリンクする。誰かが誰かの犠牲になるのではなく、それぞれが認め合い支えていくという関係性に感動した。

本市においても、この「ごちゃまぜ」という考えかたを取り入れた福祉事業の整備、もしくは民間活力との連携をして整備することを期待したいものである。